

保護者会連合会だより

令和5年3月1日発行 No. 2

寒かった冬も少しずつ暖くなり、春が一步一步近づいていると感じられる時季となりました。

さて、今年度の保護者会連合会の活動も残りわずかとなりました。

近年は行事の中止を余儀なくされましたが、今年度は開催方法を検討し、感染対策を取りながら無事に開催することができました。ご協力いただいた皆様に心から御礼申し上げます。

年度末にあたりまして、今年度の活動報告をさせていただきます。



一年のお礼

益田市保育研究会保護者会連合会
会長 小原静伍（都茂保育所）

保護者会連合会に関わってもうすぐ一年。この文章を書いている時には、予定した行事もあとは劇団「うりんこ」さんの公演だけになりました。おかげさまで感染状況や天候にも左右されず、大きな事故もなく行事ができ、いろいろなものが元の生活に戻っていることを実感した一年でした。各事業を行うのに、ご指導、ご披露いただいた講師の方々、保護者のみなさまにはアンケート調査へのご協力、イベントへご参加いただきありがとうございました。

秋にはこれまでの要望が形になったキッズルームのお披露目、市長への要望書提出と意見交換に出席させていただきました。恥ずかしながら、この会で毎年行っているアンケート調査はこれまでわが家では奥さんに書いてもらっていました。今年は担当なので書いてみようと思いましたが、子育て…通院…任せきりでなかなか思うように書けませんでした。私自身のまわりの点検になりましたし、集まった回答には思いつかないような日常の問題点がたくさんありました。子育て世代の意見を形にする数少ない場所なので、またの機会があれば家族で話し合ってお協力いただければ幸いです。

親睦や研修のイベントは、これまで新型コロナウイルスの影響でできなかったものを元に、感染対策などを煮詰めてできる企画を進めました。防災パークでは、家ではどんな災害が起きるだろうか考えました。冷静に対処できるように準備しておこうと思います。親子運動教室では体の普段使わない筋肉を使いました。益田は冬の間、外遊びが制限されがちで内容もマンネリ化しがちなので家でもやってみようと思います。

各事業を通して、これからももっと女性の意見まで細かく反映させた子育て環境の改善と、先細りにならないような益田の子育てしやすさの発信を、行政任せでなく保護者も一緒になって行う必要があると思いました。日々目まぐるしく変わる価値観で、ここに住む魅力を見失いそうになりますが、私たちも次の世代も住みやすいところにしていきたいと思っています。

最後になりましたが、役員、保育研究会のみなさま、各事業を支えてくださりありがとうございました。偶然でこのような機会をいただき、当初は何をするのか分からないし…今年の副会長さんは二人ともワタナベさんで覚えられないし…戸惑いながらでしたが、「やってみてよかった」です。一年間お世話になりました。

○要望書提出 令和4年11月25日

今年度も益田市内認可保育所(園)・認定こども園の保護者を対象にアンケート調査を実施し、375件の回答を頂きました。保護者会連合会及び益田市保育研究会ではこのアンケート結果を集計し、下記のように生の声をまとめ、益田市へ要望書として提出いたしました。

要望趣旨

本市におかれましては、かねてより保育行政に鋭意努力され、子ども達と私たち保護者に対しまして格別のご配慮を頂き、深く感謝申し上げます。

これまで、私たち益田市保育研究会保護者会連合会では、毎年、全ての保育所及び保育所型認定こども園の利用者を対象にアンケートを実施し、子育て世代の声を市政に届ける活動を続けて参りました。毎年、このアンケートには、子育てに困難を抱える皆さんの様々な声が寄せられ、まだまだ改善が必要な点があることに気付かされるものとなっています。

少子化の進行による影響の一つとして、地域から子どもの姿が少なくなることで子どもとの関わりが少なくなり、子ども達の置かれている環境への関心が低い社会となっていきます。子ども達とかかわる中で大人も成長し、子ども達のためにという思いが自分たちの暮らす地域をより良くしたいという思いに繋がっていくものです。

国においてははいよいよ令和5年4月1日にこども家庭庁が創設されることとなり、こども基本法で示されたこども政策の基本理念等に基づき、子ども政策を強力に推進していくこととされ、「こどもまんなか社会」の実現に取り組んでいくこととなっています。

少子化の時代であるからこそ、本市の子どもや子育て環境に更に目を向け、全国に誇れる「ひとが育つまち益田」に向け、益田市次世代育成支援計画の基本理念として謳われる「家庭と職場と地域、社会全体で子育ての喜びを分かち合える益田。生まれた喜び、愛される幸せの実感を、次の世代につなげる益田。」の実現に向け、更なるご支援をお願い致します。

要望事項

一 益田市特定教育・保育に係る保育料負担額等の軽減

- ・0～2歳児の利用者の保育料についても更なる保育料負担軽減をお願いします。

二 安心して産み育てることのできる医療体制の確保

- ・誰もが安心して妊娠・出産・子育てができるよう、小児科医・産婦人科医の人材確保をお願いします。
- ・不妊治療の助成制度について、更なる拡充と制度の周知を図ることをお願いします。

三 安心して仕事と子育てができる社会環境の整備

- ・安心して仕事と子育てが両立できる差別や偏見のない労働環境となるよう、「ますだ子育て応援宣言企業」の登録を進めるのはもちろんのこと、各事業所への積極的な啓発を行い、社会全体の子育てへの理解を広げる取り組みをお願いします。
- ・子ども達が安心して通学や散歩ができるよう、危険個所の整備など通学路および散歩コースの安全対策の強化をお願いします。

四 公共施設の整備・充実

- ・公園遊具の点検の徹底と整備・更新をお願いします。
- ・小学校校庭の遊具の整備充実をお願いします。

五 放課後児童クラブの整備・充実

- ・放課後児童クラブの老朽化した施設の計画的な建て替え、整備をお願いします。

六 少子化対策の推進

- ・益田市の子育て環境の良さを市の1つの魅力として、市内外のUターン希望者などに向け、積極的に発信するようお願いします。
- ・Uターン者や高卒人材など、若者が地元に着住するための取組みに力を入れて頂きますようお願い致します。

令和4年11月25日
益田市保育研究会保護者会連合会
会長 小原静伍

要望回答書

令和4年12月26日
益田市長 山本 浩章
(子ども福祉課)

平素より、本市福祉行政に対して格別なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、子ども・子育てを取り巻く状況は、社会環境の変化等に伴う核家族化や就労形態の多様化などにより、保育・子育てニーズが増大・多様化しています。
本市においても、少子高齢化の問題、放課後児童クラブの待機児童問題、保育士不足等をはじめとした様々な課題が山積している状況です。
「第2期益田市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、課題の明確化、市民・事業者・行政における協働の加速化を推進し、より一層の子育て環境の充実を図ることとしております。
貴会より頂きました要望に関しまして、次のとおり回答いたしますので、今後ともご理解とご協力の程よろしくお願い致します。

一 益田市特定教育・保育に係る保育料負担額等の軽減

- ・0～2歳児の利用者の保育料についても更なる保育料負担軽減をお願いします。

【回答】

市の事業として、多子世帯の第3子以降の3歳未満児の保育料を無料としております。
3歳児以上の無償化実施から、市の新たな負担も増加していますことから、0歳から2歳児の保育料について、新たに単独で負担軽減措置を実施することは困難な状況です。

二 安心して産み育てることのできる医療体制の確保

- ・誰もが安心して妊娠・出産・子育てができるよう、小児科医・産婦人科医の人材確保をお願いします。

【回答】

子育てに関連する小児医療、産婦人科医療につきましては、市においても、県においても医療体制において重点的に取り組んでいくところです。
まず、産婦人科につきまして、島根大学医学部産科婦人科から益田赤十字病院へ3名の医師の派遣を受けています。これにより、令和3年度におきましては益田市の分娩件数は、全体で297件、その内54件の里帰り分娩を受け入れています。今後もこの体制を維持できるよう努力していきます。
次に、小児科について、益田赤十字病院では3名体制のため、外来診療の完全予約制や予防接種件数の制限等の状態が現在も続いており、市民の皆様の多大なご理解とご協力をいただいております。また、開業医で小児科専門の診療所が1か所になったことにより、小児科を標榜されている診療所への受診や小児予防接種が若干増えている状況であり、各診療所にはご尽力をいただいているところです。
このことに対して、島根大学医学部産科婦人科や小児科に出向く等により、引き続き市の厳しい現状を伝えていきます。また、県及び医療機関等の協力も不可欠であることから、医学部等への要望に併せ、更なる連携強化を図るとともに、大学や病院に対する支援も継続して行ってまいります。
小児科医、産婦人科医等が疲弊し、診療体制の崩壊を招くようなことがないように、今後も医師確保に向けた取組をすすめるとともに、市民の皆様にも適正受診等のご協力をいただく等、共に力を合わせて医療従事者も市民も安心で幸せを実感出来るまちづくりを推進していきます。

- ・不妊治療の助成制度について、更なる拡充と制度の周知を図ることをお願いします。

【回答】

不妊治療におきまして、平成26年度より「一般不妊治療」への助成を実施しております。
また、令和2年度より制度の拡充を図っており、一般不妊治療への助成費を増額するとともに、新たに不育症への治療費の助成制度を開始したところです。令和4年4月から不妊治療が保険適用となったことで、市の助成制度の対象も保険適用となるすべての不妊治療とし、見直し、拡充を行っているところです。
制度の周知につきましては、医療機関や助産院との連携や市広報、ウェブサイトで助成制度について周知しています。また、健康情報フリーペーパーも窓口を設置しているところです。

三 安心して仕事と子育てができる社会環境の整備

- ・安心して仕事と子育てが両立できる差別や偏見のない労働環境となるよう、「ますだ子育て応援宣言企業」の登録を進めるのはもちろんのこと、各事業所への積極的な啓発を行い、社会全体の子育てへの理解を高める取組をお願いします。

【回答】

「ますだ子育て応援宣言企業」につきましては、今後も引き続いて「ますだ子育て応援宣言企業」の協力を企業に積極的に呼びかけていきたいと考えております。

現在登録していただいている企業は、51 事業者となっております。

また、市ではU I ターン者サポート企業登録制度に登録があります事業者を中心に登録をお願いしていきます。

登録制度につきましては、市のホームページや広報ますだ等においても周知や啓発を行うとともに、登録証の交付時にさまざまな制度の拡充を企業にお願いしています。商工会議所等の関係機関と連携し企業や事業所と協力しながら、ワークライフバランスの推進や、結婚から子育てまで安心して働ける職場づくりを目指します。

- ・ **子ども達が安心して通学や散歩ができるよう、危険箇所の整備など通学路および散歩コースの安全対策の強化をお願いします。**

【回答】

小・中学校の通学路につきましては、「益田市通学路交通安全プログラム」に沿って通学路の安全対策を実施しています。

毎年、各校で抽出された危険箇所について、道路管理者や警察などと合同点検を実施して改善・充実を図っています。

未就学児についても、集団で移動する経路の緊急安全点検を保育所等の施設関係者、警察等の関係機関で合同点検し、対策を検討して改善を図っています。

こうした取り組みにより危険箇所は少しずつ改善してきていますが、引き続き、こういった努力と関係機関へ要望しさらなる改善を図ってまいります。

四 公共施設の整備・充実

- ・ **公園遊具の点検の徹底と整備・更新をお願いします。**
- ・ **小学校校庭の遊具の整備充実をお願いします。**

【回答】

遊園の遊具については、点検、保守を実施しております。新たな遊具を設置することは、困難な状況です。

小学校の校庭の遊具につきましては、授業で使用する鉄棒などの教具を優先して整備している状況です。ブランコやすべり台などの遊具については、既存の遊具の維持管理を進めているところです。遊具も必要と考えますのでなるべく充実していけるよう努力していきたいと思います。

五 放課後児童クラブの整備・充実

- ・ **放課後児童クラブの老朽化した施設の計画的な建て替え、整備をお願いします。**

【回答】

老朽化した施設については、実態調査を行ったうえで、修繕や小学校の利用可能教室の活用などを進めている状況です。今後につきましても、修繕、小学校の活用という方向で進めていきたいと考えています。

六 少子化対策の推進

- ・ **益田市の子育て環境の良さを市の1つの魅力として、市内外のU I ターン希望者などに向け、積極的に発信するようお願いします。**
- ・ **U ターン者や高卒人材など、若者が地元に着住するための取組みに力を入れて頂きますようお願いします。**

【回答】

益田市では、U I ターン希望者向けのパンフレットや、移住定住・ひとづくりの特設サイト『益田のひと』により「ひとづくり協働構想」に基づく地域と一体となった子育てや教育の取組などを紹介し、U I ターン希望者や市内外の方へ益田市の暮らしの魅力を発信しているところです。

U I ターン、U ターンをされた方及び新規学卒者の方が、市内の事業者等に新規就業された場合の支援として、「ますだ暮らし定着支援事業助成金」を交付しています。この制度では39 歳以下の方、U I ターン者サポート宣言企業に就業された方にはそれぞれ加算金を設けております。また、交付を受けた方への定着支援のため、市が主催する行事や研修会等への参加を促し、地域の方々とのつながりを深め、益田市の良さを知ってもらう機会を提供するなどし、市への定着に結び付くよう取り組んでおります。

今年度からは、島根県のモデル事業に採択され、進学等を機に転出した市内高校卒業生等を対象に、転出後も益田市とつながり続けるよう、SNS による情報発信やインターンシップを行う「益田市版ツナガル事業」を実施しています。U ターン希望者を増加させるとともに、U ターンした際の仕事や暮らしについてのイメージギャップを小さくし、定着にもつながるよう事業を進めてまいります。

要望書の提出について

副会長 渡邊大治（北仙道保育所）

今年も保護者の皆様から頂いたアンケートを基に要望書を作成し、益田市へ提出させて頂きました。役員の皆様方と直接益田市長にお会いして、自分達の子育てに対する思いなど伝える事が出来ました。まだまだ保護者の皆様の子育てに対する思いが伝え切れてない事も沢山有ると感じましたので、来年度も引き続きアンケートに積極的に御協力頂ければと思っています。



○市民体育館キッズルームお披露目会 令和4年9月3日

コロナ禍での遊びについて

理事 上杉賢志（神田保育園）

コロナ禍での生活も約三年が経ち、感染対策をしながらの生活も当たり前になってきました。当初に比べて、コロナに対する恐怖心は良い意味でも悪い意味でも薄れてきたように思います。その中で今回、連合会の要望で完成した“キッズルーム”お披露目会へ参加させていただきました。以前は「トレーニングルーム」という場で、フリースペースが多かった印象でしたが、今回のキッズルームは、絵本やままごとができる場、ボルタリングスペースやバスケットゴール…子ども達が選んで遊べるスペースがたくさんあります。園児から小学生低学年までを対象にしており、感染対策をしながら子ども達が思いっきり遊べる場を提供することの大切さ、尊さを感じることができます。人込みを避け、限られた場所や時間で子ども達が窮屈さを感じることなく過ごせる場を提供していくことは、これからも子育て世代の保護者の課題であると思います。

今回連合会に参加させていただき、自分の意識を変える良いきっかけとなりました。これからもまだまだ続くであろうコロナ禍でも、子ども達が十分遊べる方法はいくらでもあると思います。これからも新しいアイデア・工夫を期待しています。

一年間、本当にありがとうございました。



研修事業・「防災パーク～防災をもっと日常に～」

副会長 渡邊祐司（わかくさ保育園）

令和4年11月20日(日)に保護者会連合会・保育研究会主催で研修事業の防災パーク～防災をもっと日常に～と題して消防署・警察署のご協力で防災について学ぶ研修事業を開催しました。

万葉公園の太陽の広場にて消防からは、はしご車の展示・消火器を使用した消火体験・火災時の煙体験・紙芝居とさまざまな体験ができ、警察からはパトカー・白バイに乗って記念撮影をしたりパネル展示があったりと、楽しく防災について学ばせてもらいました。多くの親子が参加してくれて、良い体験が出来たと言う声も聞けてとても良かったです。

僕は連合会に参加するのは2回目になります。前回の時に企画していた「防災パーク」は新型コロナウイルスの感染拡大で実施できませんでした。ですが連合会の会議の中で出来なかった、この企画をやってみたくて言った時に皆さんが快く受け入れてくださりとても感謝しています。

コロナ禍で様々な制限の中、参加してくれた親子と協力していただいた関係者の皆様のお陰でよい経験ができました。誠にありがとうございました。



親子運動教室

理事 和崎博典（吉田こども園）

1月15日ジャストホールにて研修事業「親子運動教室」が開催されました。あすトレ益田、PSV 益田スタッフの皆様の協力のもと無事終わることができました。様々なイベントが中止する中、運動する機会が激減してしまった子供達にとってはとても良い研修事業になったと思います。

ボールを使ったコーディネーショントレーニングやラダートレーニングなど様々な運動をしました。最後はネコとネズミという子供たちの瞬発力を育むことができる追いかけっこ形式のゲームで、親子で楽しめるゲームでした。

普段何気なく子供と遊んだりしていますが、何気ない運動の中にも子供たちが伸ばす能力がたくさんあることを教えていただきました。

多くの方にご参加、ご協力をしていただき大変充実した研修事業となりました。誠にありがとうございました。



親子教室感想

監事 大屋和希（常盤乳児園）

無事にケガもなく親子運動教室が開催することができて良かったです。

子供達を見ていてこんなに難しい動きができるんだとか、大人でも辛そうな体の動きができてすごいなと感じたり、沢山発見することがあって楽しむことができました。個人的にも我が子と一緒に普段することが出来ない運動をして楽しい時間となりました。

またこのような機会があれば参加してみたいなと思いました。

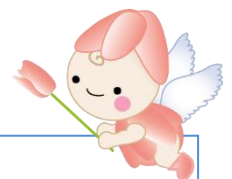
劇団うりんこ きみがしらないひみつの三人

監事 岩野彩子（益田ひかり保育所）

令和5年2月26日（日）ふれあいホールみとにて、劇団うりんこさんをお招きし、「きみがしらないひみつの三人」が開催されました。このお話は、脳、心臓、胃袋といった人間の臓器を擬人化し、それぞれが毎日自分の体の中で、自分のために働いてくれたり、見守ってくれたり、死んでからも大事なお仕事をしてくれたり…一生一緒に寄り添ってくれる様子がやさしく描かれています。このような視点があったのだなと驚かされました。

子どもたちはみな産声をあげた瞬間から、たくさんの人に見守られ、応援されて大きくなります。しかし悲しいことがあって涙が止まらないこと、もう立ち直れないくらい落ち込むこともあるかもしれません。そんな時、自分の体の中にも自分を応援してくれるハートおばさん、あたまはかせ、いぶくろおじさんの様な応援団がいると思うと、とても心強く、少し前を向けそうな気持ちになれると思います。

小さな子どもたちの目にどう映ったかはわかりません。でも「おうたじょうずだったね。」などと語り合う我が子を見て、“本物に触れさせる”という事の大切さを思い出した様に思います。スマホ1つでなんでもできる時代に生きる彼女たちに、自分の目で見たもの、聞いたもの、手で触れたものを通して心揺さぶる体験を作っていきたいと思いました。



令和4年度 保護者会連合会役員

会長：小原静伍（都茂保育所）

副会長：渡邊大治（北仙道保育所）、渡邊祐司（わかくさ保育園）

理事：上杉賢志（神田保育園）、大家康延（明星保育園）、和崎博典（吉田こども園）

監事：岩野彩子（益田ひかり保育所）、大屋和希（常盤乳児園）

顧問：寺戸顕太郎（横田保育園）、檜谷 佑（原浜保育所）